

自然と調和した住みよい環境をつくる

街路灯整備事業	6,636
定住促進持家住宅建設事業	2,000
宅地造成整備事業	4,725
町道除排雪	64,015
町道幌延1号線道路改良事業	50,480
町道1条線道路改良事業	11,844
町道幌延下沼線道路改良事業	41,147
町道1条仲通線道路改良事業	2,163
町道開進10号線道路改良事業	5,523
栄町団地公営住宅補修事業(4棟16戸)	7,019
宮園団地公営住宅整備事業(1棟12戸建設)	149,130
消防庁舎格納庫整備事業	104,518

生き生きとした魅力ある産業をつくる

中山間地域等直接支払事業	76,095
担い手対策事業	1,000
乳牛検定組合補助事業	2,536
幌延地区畜産担い手育成総合整備事業	217,881
問寒別地区畜産担い手育成総合整備事業	103,158
幌延町酪農ヘルパー利用組合補助事業	5,950
生乳成分検査事業	1,519
農業用水道施設改修事業	2,638
森林管理道上幌延線開設事業	38,488
町有林整備事業	5,460

21世紀北の森づくり推進事業	6,506
幌延町商工会育成事業	10,394
幌延町商業店舗近代化促進事業	10,000
ほろのべ名林公園まつり事業	4,940

明るく元気に暮らしをすすめる

社会福祉協議会活動推進経費	4,300
老人福祉施設管理経費	16,961
老人クラブ活動推進経費	765
幌延福祉会運営費補助事業	6,643
保育所管理経費	19,178
保健推進事業	7,497

学ぶところと文化を育てる

情報教育研究推進事業	2,532
小学校管理費	56,608
中学校管理費	21,176
公民館運営管理費	19,756
総合スポーツ公園維持管理費	13,995
総合体育館維持管理費	13,428

町民参加のまちづくりをすすめる

広報誌「ほろのべの窓」発行経費12回	4,496
自治会活動促進経費	1,186

町の家計は大丈夫?

平成17年度の幌延町の決算額は、一般会計、特別会計及び病院事業会計合せて収入が60億1,611万7千円、支出が59億3,014万6千円、翌年度繰越財源額1,851万2千円、差引6,745万9千円でした。

町の各会計予算は、町民の皆さんから納めていただいた税金などのお金を、どのように有効活用して事業を行うかということが大事になります。ただ、収入と支出の差が大きければ良いということではなく、抑えるべきところと使うべきところのバランスが良くなければならないということです。

予算のバランスを見るための物差しが、次の各比率です。幌延町(普通会計)の数字を見てみましょう。

- 経常収支比率 81.9(83.7) 平成17年度の数字です。
- 公債費比率 13.7(14.3) ()内の数字は平成16年度のもです。
- 起債制限比率 8.0(7.6)

経常収支比率

財政構造の弾力性を測定する数字です。町が自由に使えるお金(地方税、地方交付税、地方譲与税など)の中で、人件費や物件費、公債費(借金の返済金)など義務的性格の経常経費が占める割合で、この比率が高いと町独自のいろいろな事業が出来なく

なってしまう、幌延町では町村で妥当と言われていた70%を相当超えています。国から交付される地方交付税の削減や、公共施設などの維持管理経費がかさんでいることなどが要因ですが、行財政改革の推進により、効率的な行政運営を図っていきます。

公債費比率

今までの借金のその年度の返済金が公債費です。この公債費が地方税、地方譲与税などの一般財源に占める割合で、10%を越えないことが望ましいとされています。

今後とも、事業の緊急度、必要度の高いものを選択し、効率的な事業の推進を図っていきます。

起債制限比率

地方債(長期の借金)の許可制限に係る指標で、13%以下が財政の健全性を示す数字です。公債費比率と違うのは、借金の償還元金と利子に対して地方交付税で措置されている額を除いて算定している点で、起債制限比率のほうが財政の実態をより表しています。

以上の数字から見て、国から交付される地方交付税の削減により一般財源(町が自由に使えるお金)が減少し、町民の皆さんのニーズにあわせた施策を進める事が困難になってきていますが、行財政改革の推進を図り、「最小限の経費で最大の効果」を念頭に、更なる経費の見直し、優先順位の検討などを進めてまいります。